

文化の風が吹くまち ちくしの

# 文化薫道

◆其の六十二

## 島でない「島」

### 陸地に見られる「島」の地名

市内の地名を見ると、所々に「○○島」などのように島の字がついた地名が目につきます。普通「島」は水に浮かんで見えるものですが、海や湖でもなく、川の中洲のような場所でもないのに、なぜだろうと不思議に思います。

気が付くものだけでも「牛島」をはじめ、阿志岐の「上島」「下見の「土侍島」西小田の「鬮島」「筑前島」などがあり、宝満川沿いに多く見られるようです。また、「島」の辺りという意味でしょうか。「島廻り」という地名が、同じ宝満川流域の諸田・常松や、山口川流域の俗明院・立明寺にも見られます。それらは、いずれも河川に近い所や、河川が合流する地点にあるといったことが特徴で、宝満川・山口川以外の比較的小さな河川には見られません。元々の古い地形を調べてみると、なるほど確かに「島」と付く地名

の場所は、島のようになく高くなっています。これは、河川の中



市内を流れる宝満川

にあった島がとり残されたということではなく、どうも、河川沿いに形成される「自然堤防」に由来しているようです。

「自然堤防」とは、水の力によって河岸に運搬された土砂が少しずつ堆積した丘のこととで、その表面は砂質土であることから周辺と比べて水はげがよく、古くから集落や畑として利用されてきました。街道なども低地をさけて、自然堤防を通過する事例が多いようです。

「地名」は、人が大地につけた名称です。その由来はさまざまですが、歴史や経済、文化などが関わってきた文化地名、地形や自然などによってできた自然地名があります。地名がどのように生まれたのかを考えることは、私たちにとっても、重要なことです。

問い合わせ先／文化財課

